

歴史的瞬間に感動し、牧場とセリでは本場の奥深さを実感

追分ファーム 木下 勇人

11月5日、忘れられない10日間の旅が始まりました。私自身にとっては初の海外だったので、このアメリカ研修はすべてが新鮮で、大変貴重な経験をする事になりました。

まず西海岸のロサンゼルスに着きました。厚着をして旅立った北海道とは異なり、まったくといっていいほど温暖な気候で、街を眺めていても日本では見かけない多くの人種の人々が行きかっており、やっと外国に来たのだと実感させられました。

ここでの目的はブリーダーズカップの観戦でした。普段から日本の競馬を見慣れていて、それが当たり前になっている私にとっては、アメリカの競馬場で見た光景は多くの違いを目の当たりにすることになっているとさえ考えさせられました。

たとえば、日本では「装鞍→パドック→返し馬」と続くレース前の一連の流れは、アメリカでは「パドック→装鞍→返し馬」という順番になっています。馬のストレスを考えれば、装鞍している時間が短ければそのぶんストレスを感じさせないことにつながると思いますが、パドックに出てきた馬が馬服を着ている場合もあり、馬券を購入する人に対して「馬を見せる」という点においては、日本の競馬のほうがより観客を意識したシステムになっているように思います。また、パドックの周回も馬装してから小さなリンクを1、2周するだけで本馬場に向かってしまうので、レース前に馬を馴らすといった印象です。

返し馬に関しても、リードホースをつけているので馬のテンションが異常に上がることはなく、レースにおいてすべての能力を発揮させるという意味ではいいシステムだと思いました。ただ馬がコースに出てからすぐにレースが始まるため馬券を購入する時間が短く、私自身、列に並んでいたら締め切られて馬券を買えなかったこともあり、馬場入りから発走まではもう少し時間をとったほうがより売り上げを伸ばせるのではないかと考えてしまいました。

競走馬に最高のパフォーマンスを発揮させることによって一大イベントを盛り上げようとするシステムではありますが、日本の競馬サークルは海外と比較しても高額な賞金を出すことによって生産社会・厩舎社会・馬主社会が成り立っている世界であることを考えると、わが国ではそれを下支えしている馬券購入者の立場を考えざるを得ない事情があることを思って複雑な心境になりました。

競馬の主役は馬であり、生産に携わるものとして、その馬のすべての能力を競馬場で発揮させることが大切であると、日ごろから思っています。日本そしてアメリカ、またヨーロッパなどそれぞれの国の事情が異なるなかで競馬が行われており、一概にそれぞれの長所をすべて日本に導入するには時間がかかることだと思えます。未だに競馬をギャンブル

として捉える見方が多い日本でも、馬という生き物に対して人々の理解を少しずつでも得ていくことが大切だと感じます。また、初めて見るオールウェザーの競馬はダートとは違って、むしろ芝のレースに近いスピード感のあるものでした。

2日間にわたるブリーダーズカップで最も注目を集めたのはブリーダーズカップクラシックでした。今年は未だ無敗の女王ゼニヤッタが古馬の一線級と対決すべく出走しました。彼女は過去に牝馬が勝ったことのないクラシックで1番人気に支持されていました。その大きな期待にこたえる結果でレースが終わると、私は歴史的瞬間をアメリカで見たのだと思い感動し震えました。

ブリーダーズカップ観戦が終わると種馬場見学のためレキシントンに移動しました。西から東へ移動するなかで、アメリカ国内なのに時差が3時間もあることに本当に広い国だなと実感させられました。レキシントンの気候はロサンゼルスとは違って肌寒さすら感じさせるもので、景色も一変してどこか牧歌的な雰囲気醸し出しています。牧場がたくさんあって世界各国で活躍する名馬たちを生産してきた土地はさすがという感じで、どの牧場も放牧地の草をきれいに刈っていて、厩舎の中もとてもきれいに管理されていました。

最初にテイラーメイドファームを訪れたとき、1つの種馬厩舎に2馬房しか繋養されていないことに驚きました。種馬はとてもおとなしく、人間との信頼関係が構築されており、さらに見学されることにも慣れていている様子でした。以前、アンブライドルズソングとフォレストリーの産駒を数頭管理した経験がありましたが、初めて実馬を見てやはり父の特徴が受け継がれているなど実感しました。

そのあとも数々の牧場でたくさんのお名種牡馬を見学させていただきました。なかでも一番思い出に残っているのがレーンズエンドファームのキングマンボとエーピーインディです。両馬ともすでに高齢ですが、今まで数々の名馬を送り出してきた種馬ですから圧倒的な雰囲気を放っていました。

同時期に行われていたキーンランドセール見学では、日本のセリとは違って当歳と繁殖が並んで歩いていたのでなんだか不思議な感じでした。パレードリンクを回っている馬はどれも大人しくてとてもきれいにされていたことに、アメリカの生産界の奥深さ、そして確かな実力を感じました。

この研修でいろいろなものを見たり感じたりでき、多くのことを学びました。ほかの牧場のスタッフと交流していろいろな話を聞かせてもらうことで新たな刺激とともに貴重な経験ができ、私にとって非常に内容の濃い研修となりました。

最後に、私をこの研修へ参加させてくださった吉田晴哉社長、引率してくださった土井社長と鈴木さんに心から感謝をいたします。